

2011 年度 (平成 23 年度) 学校評価自己評価表

最終更新日	2012 年 (平成 24 年) 3 月 8 日
-------	--------------------------

校番 6	福山市立 幸千中 学校
------	-------------

1 学校教育目標

自ら考え、自ら学び、共に行動できる生徒の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命 (ミッション)

社会の中で活躍でき、貢献できる社会人となるための基礎力の育成

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像 (ビジョン)

落ち着いた学校、きれいな学校、活気のある学校

- 夢の実現に向け、真摯に努力する生徒
- 他者への配慮が自然に態度や行動に表れる生徒
- 確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ生徒

3 自校の現状分析

- 基礎学力の定着、指導方法の工夫改善が課題である。
「基礎・基本」定着状況調査 県・市平均より上 … 1 教科
下 … 2 教科
- 学習習慣、生活習慣が身に付いていないことが課題である
家庭学習 毎日1時間以上取り組む … 48. 2%
全くしない … (平日) 9. 1% (休日) 12. 8%
生活習慣 毎日朝食を食べる … 89. 9%
- コミュニケーションのとり方が苦手な生徒が多いことが課題である。
あいさつをしている … 80%
困ったとき、腹が立ったときの対応に自信がない … 35%
- 長期欠席生徒が多いことが課題である。
昨年度 41名、一昨年度 35名

4 研究主題

(1) 研究主題

学習意欲を喚起し、学力を高める授業の創造
～ 導入・発問の工夫と肯定的評価を重視した授業づくりを通して自己肯定感の育成 ～

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
県	生徒指導研究推進校	平成23年度
県	指導方法工夫改善 (数学)	平成23年度
県	少人数プロジェクト (数学)	平成23年度
県	スクールカウンセラー配置事業	平成23年度
市	教育研究支援事業 一全教科一	平成23～25年度

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
・あいさつ、マナーの慣行	一人一人の生徒が、将来の夢や目標に向け自分の力で進路を切り拓き、社会の中で活躍・貢献できる社会人となるためには、中学生の時期に身につけなければならない力をしっかりと定着させる必要がある。 本校の生徒には特に、「守・破・離」の「守」の充実を図りたい。
・きまりの遵守と徹底	
・基礎学力、授業力の向上	

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価 (最終) の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着 目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期) 経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
確かな学力	5	基礎学力の定着	★	見直し	生徒が意欲をもつための授業計画	B	△生徒の「授業満足度」に対する肯定的評価を70%以上にする。	a	□生徒の「授業満足度」に対する肯定的回答の割合は授業満足度は77%である。 □国語(県:-1.2, 市:-2.2) 数学(県:-6.5, 市:-6.1) 英語(県:-11.2, 市:-8.7) ○生徒が意欲をもつための授業計画は全ての授業において行われているが、理解度の向上や基本事項の定着には課題がある。 ◎本年度の研究成果を整理し、理解度の向上や基本事項の定着に有効な取組みを全学年・全教科に取り入れる。
							△「基礎・基本」定着状況調査において、県及び市平均以上にする。	c	
				見直し	既習内容を定着する学習指導	B	△毎日の家庭学習が1日1時間以上の生徒を60%以上にする。	b	
							▽すべての授業で既習内容を定着する取組みを取り入れるとともに、計画的に宿題を出す。	b	
豊かな心	1	豊かな心情と創造的な活動の育成	見直し	生徒の自律を促す生徒指導	A	△生徒の「ルールやマナーの遵守」に対する肯定的評価を80%以上にする。	a	□生徒の「ルールやマナーの遵守」に対する肯定的回答の割合は91.1%である。 □生徒の「自己肯定感」に対する肯定的回答の割合は62.7%である。 □生徒の「コミュニケーション能力」に対する肯定的評価は3学期生徒アンケートより73.0%である。 □Q-Uアンケート(学級・学校生活満足アンケート)において、全国平均以上にする。 □「学習規律・生活規律に関する重点目標を掲示し、目標を達成する」についての肯定的回答の割合は91.1%である。 ○生徒の自律を促す生徒指導を目指して指導を継続し、アンケートによる肯定的な回答の割合も概ね向上してきている。自己肯定感を向上させる指導に課題がある。 ◎授業や学級活動・特別活動の中で個を認める指導を継続してきた。研修を重ねて、より効果的な声かけや指導方法を習得する必要がある。	
						△生徒の「自己肯定感」に対する肯定的評価を70%以上にする。	b		
						△生徒の「コミュニケーション能力」に対する肯定的評価を70%以上にする。	a		
						△Q-Uアンケート(学級・学校生活満足アンケート)において、全国平均以上にする。	a		
						◇生徒会により、学習規律・生活規律に関する重点目標を掲示し、目標を達成する生徒を70%以上にする。	a		

市重点目標	年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	(最終)評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	(最終)指標評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標の達成状況 ◎ 改善方策
豊かな心			★	見直し	規律3要素の徹底	A	△登校時間に遅刻する生徒を、日平均全生徒の3%以下にする。 ◇生徒が「あいさつ運動」に年間1回以上参加するとともに、「あいさつ」に対する肯定的評価を90%以上にする。	a	□ 登校時間に遅刻する生徒の日平均対全生徒に対する割合は2.9%である。 □ 「あいさつ」に対する肯定的回答の割合は89%である。 □ 「落ち着いて学習・生活できる環境づくり」に対する肯定的評価は保護者アンケートより78.7%である。 ◎ 規律3要素については、ほぼ目標に近い値であるが、あと数分の遅刻や遅刻する生徒の固定化、あいさつの声の大きさ、教室環境の学級差等の課題が見られる。学級・学年間の壁を越えた指導を行う。
						△生徒及び教職員の「落ち着いて学習・生活できる環境づくり」に対する肯定的評価を70%以上にする。	a		
健やかな体	1	たくましく生きるための健康・体力づくり		見直し	心身ともに持続力が備わった生徒の育成	C	△体力テストにおける運動能力について、各学年男女とも、県及び市平均以上の項目を3つ以上にする。	d	□ 1年男子3種目・1年女子1種目、2年男子1種目・2年女子1種目、3年男子3種目・3年女子5種目である。 □ 「弁当の日」は実施済み(11月7日) ○ 心身ともに持続力が備わった生徒の育成については、体力テストにおいて昨年度より向上したものの、目標達成はできなかった。「弁当の日」は実施できた。 ◎ 体力テストの結果から明らかになった課題を解決する方策に、本校独自のサーキットトレーニングを開発し、取り組む。また、「弁当の日」については、課題を整理し、年間計画を立てて、充実した内容にする。
							▽「弁当の日(自分でお弁当をつくる日)」を実施する。	a	
力量ある教職員	1	指導力の向上と人材育成の充実		見直し	全員で取り組む授業力向上	C	▽すべての教員が、他の教職員による授業参観を各期5回以上受け、授業改善に生かす。	c	□ 「すべての教員が、他の教職員による授業参観を各期5回以上受ける」取組みの進捗状況は73%である。 □ 「授業改善」に係る校内研修を年間3回以上、実施するは3回実施済みである。 □ 「校区小学校との相互参観を年2回以上要請し、小学校の校内授業研修に参加する」は中学校→小学校 2回 小学校→中学校 1回である。 ○ 全員で取り組む授業力向上は、校内研究や相互の授業観察で行われているが、進捗状況に停滞が見られる。また、小学校からの校内授業研究への参加が少ない。 ◎ 来年度は、相互の授業観察の充実を図るため強化月間を年3回設定して取り組むとともに、進捗状況を報告させる。
							◇「授業改善」に係る校内研修を年間3回以上、実施する。	a	
							▽校区小学校との相互参観を年2回以上要請し、小学校の校内授業研修に参加する。	c	
				新規	ミドルリーダーの力量向上	A	▽主任・主事を講師とする校内研修を、学期2回以上実施する。	a	□ 1学期において教務主任・進路指導主事・保健主事が実施した。 ○ ◎ミドルリーダーの力量向上への取組みは計画的に実施していく。主任・主事だけでなく県レベルの研修会に参加した若手教職員にもレポート報告をさせた。

最終更新日 2012年(平成24年)3月8日

2011年度(平成23年度) 校番6 福山市立幸千中学校 No.(4)

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着 目)	(最終) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期) 経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策
市民の信頼の向上	1	結果責任を果たすための組織的な取組み	見直し	情報の積極的な発信・受信	A	▽学校通信(幸千だより):月1回発行 ホームページ更新:月2回以上 “学校へ行こう”週間:11月実施 小学6年生児童・保護者対象のオープンスクール:2月実施	a	□学校通信は22号まで発行,HPの更新は月2回以上行っている。学校へ行こう週間は11月1日~11月10日まで実施。オープンスクールは2月はじめに実施した。 □保護者の「学校信頼度・満足度」に対する肯定的回答の割合は84.8%である。	
						△保護者の「学校信頼度・満足度」に対する肯定的評価80%以上を維持する。	a	○情報の積極的な発信・受信は昨年度より,かなり向上した。学校通信の地域への回覧を行い,学校理解に大いに役立っている。この活動により信頼回復もできつつある。 ◎今後とも計画的な情報発信および情報の受信に対する返しの的確に行いながら,信頼回復に努めるとともに,積極的な情報発信に努める。	